

【比鉄道会議でオリコンサルグローバル社員が講演 鉄道人材育成の取り組みを紹介】

## 鉄道人材育成の 取り組みを紹介

### 比鉄道会議でオリコンサル グローバル社員が講演



フィリピンのマニラで10月25日に開かれた第1回フィリピン鉄道会議に、オリエンタルコンサルタツグローバルの萩原崇之軌道交通計画部長が招待プレゼンターとして登壇した。写真。国際協力機構（JICA）発注の「フィリピン鉄道訓練センター設立・運営能

力強化支援プロジェクト」に総括として携わった実績から、会議を主催した同国運輸省の推薦を受けた。

同国では鉄道整備事業の拡大に伴い、鉄道人材の育成が喫緊の課題となっている。こうした状況から同センターは大統領令により運輸省の付属機関として2019年12月に設立され、現在までに既存の鉄道職員4000人のうち、70%までが研修を終えている。萩原氏はこうした設立の経緯や実施トレーニングの内容、課題などについて講演した。

同社が施工監理に従事するマニラ地下鉄事業や南北通勤線事業など、整備中路線の運営・保守職員に対する研修を含めると、今後1万5000人程度の鉄道人材を育

成することになるという。同社は同国での鉄道事業の業務拡大を受けて19年6月にフィリピン鉄道事業総括室を設立したほか、都市鉄

道の運営・保守に関するコンサルティンク業務を強化するため、20年4月にはO&M推進室を設置している。

## 運輸大臣がDX体験



GIS（地理空間情報）スマートマップとBIM活用によるフィリピン鉄道学校VR（仮想現実）空間を体験した。

今回のGISスマートマップは、鉄道プロジェクトだけでなく、空港、港湾、道路分野など、同国運輸省の管轄する他分野プロジェクトへの活用が想定されている。BIMを活用して作成したVRデータもフィリピン鉄道学校技術協力プロジェクトでの教材活用、鉄道沿線住民のプロジェクト理解向上と鉄道運営・維持管理分野での活用を予定している。

また、同会議では同国のパウテスタ運輸大臣やロントック次官が、オリコンサルグローバルのDX（デジタルトランスフォーメーション）技術を活用して実施した